



# QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 北里 耕亮(熊本県 小国町)

第 11 号 since2005.6.1

発行日 2011.xx.xx

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：宮崎県諸塚村

<編集責任>

大分・上津江オフィス



## 【目次】

巻頭文 P.1

第 15 回九州森林フォーラム  
の報告 P.1~P.5

特別企画 ノルウェー森林紀  
行 P.5

第 16 回九州森林フォーラム  
のお知らせ P.6



残暑が厳しい折、いかがお過ごしでしょうか。第 11 号の九州森林ネットワーク通信 (QFN) をお届けします。

本号では、浦田理事をはじめ島総出の演出で盛り上げて頂いた第 15 回九州森林フォーラムの報告を掲載しています。屋久島の森の奥深さを知るとともに、自然の恵みへの感謝と地域で活かすことの大切さを学びました。関係者の皆さまに篤く御礼申し上げます。また、基調講演者だった柴崎先生からは東日本大震災の被災状況の報告もあり、震災と原発事故が、日本社会へもたらす影響や考え直さなければならない社会システムについても言及されました。その後、理事会では当 NPO が取り組むべき震災企画を議論してまいりました。10 月 28~29 日開催の第 16 回フォーラムは「シリーズ震災を超えて、第一弾」として木材業界の変化を学び、九州の家づくりのあり方を議論したいと企画しました。

多数の会員の皆さまの参加をお待ちしています。

## 第 15 回九州森林フォーラムの報告 平成 22 年 5 月 13 日~14 日

古来より、屋久島では山を神聖な場所として崇め、山の無事を祈りながら、自然と人間が共存してきましたが、近年、屋久島が世界自然遺産に登録された事により、観光的な価値が高まり、過剰な商業的利用による自然破壊や野生動物保護による樹木や農作物被害が出てきました。

今回のフォーラムでは、屋久島の素晴らしさとは何なのか、屋久島の人々は、地域資源をどのように活かし、生活していくのかについて議論してまいりました。

## 第1部 5月13日(金) 現地見学会

### ■ ヤクスギランド

屋久島の森の歴史を学ぶと共に、千年杉や仏陀杉、くぐり杉など屋久島固有の杉を見学しました



(1) くぐり杉



(2) 着生する植物

### ■ 屋久杉自然館

有名な「縄文杉」の一部や、古の林業道具などを見学しました。



(1) 展示されている縄文杉の一部



(2) 古の林業道具



(3) 屋久島に関するレクチャー



(4) 記念撮影

## 第2部 5月13日(金) 地域交流会

日高屋久島町長をはじめ、多くの町民の皆様と親睦を深めました。



(1) 地域交流会



(2) 薩摩琵琶演奏 (題：薩摩義士伝)

## 第3部 5月14日(土) 九州森林フォーラム IN 屋久島 基調講演

フォーラムでは、藤森 隆郎(ふじもり たかお)農学博士、柴崎 茂光(しばさき しげみつ)国立歴史民俗博物館研究部民族研究系准教授 により基調講演が行われました。



(1) 藤森 隆郎(ふじもり たかお)農学博士による基調講演

「持続可能な森林管理と地域社会-屋久島の森林生態系の魅力」



(2) 柴崎 茂光(しばさき しげみつ)准教授による基調講演

「屋久島における世界自然遺産登録の意義と課題～地域の資源を活かすことの重要性&難しさ」

#### 第4部 5月14日(土) 九州森林フォーラム IN 屋久島 事例発表

『自然の豊かさと共存する暮らし』をテーマに、熊本県 小国町、宮崎県 諸塚村、(株)トライ・ウッド(大分県 日田市)により各地域の事例を発表して頂きました。

#### 第5部 5月14日(土) 九州森林フォーラム IN 屋久島 パネルディスカッション

佐藤 宣子(九州大学大学院教授)のコーディネートで、パネリストは、藤森 隆郎氏(農学博士)、柴崎 茂光氏(国立歴史民俗博物館研究部民族研究系准教授)に加え、兵頭 昌明氏(「屋久島島人会議21」、「山ん学校21」主催)、岩山 鶴美氏(屋久島町安房区長)、木暮 甲吉氏(九州森林管理局屋久島森林管理所長)、堀内 直哉氏(トレジャーLLC 代表)、浦田 功氏(屋久島大屋根の会 事務局長) のメンバーで行いました。



#### ■ 参加者

見学会参加者 150名  
フォーラム参加者 170名

#### ■ 参加者からのコメント(抜粋)

- ・ パネルディスカッションはもう少し盛り上がりがあった。柴崎さんの提言にもあったように地元の特産物として杉の活用など多角的に考え、提言すべき。

人工林1万㌦の活用の道は多くある。そのひとつとして、木材の供給と販売の方法に知恵を出すべきでそのネットワークがない。その上まずは地元で1万㌦の資源の使い方を考え、先ずは地元で多く使うようにすべき。その上で東京や台湾、香港、中国でも売れる商品開発と販売ルートを構築すべき。これが進めば屋久島のブランドが更に生きると思われる。

60歳以上 建材メーカー

- ・ これからの日本の森林を活かすためのヒントが多く、学べる機会に感謝。専門性がありながらも、堅苦しくないのがよかったです。

30歳代 観光業

他多数のご意見・ご感想を頂きました。

「森からの恵みを所有者にも、国民にも」

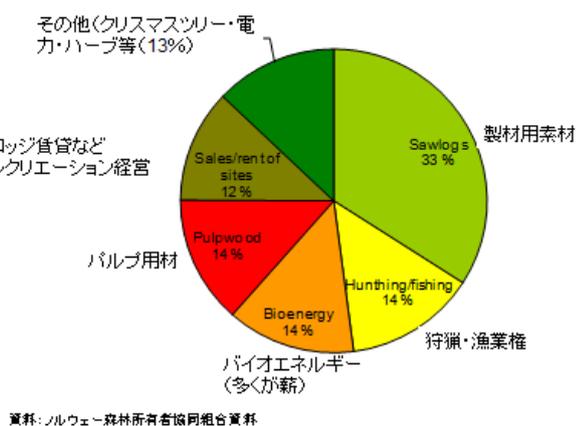
北欧の1国であるノルウェーに6月下旬に10日間行ってきました\*1。子供も手を離れてきたので、3年ほど前からノルウェーの森林・林業政策について調べています。ノルウェーはヨーロッパ北部のいわゆる北欧のスカンジナビア半島の最も西に位置します。国内の東はロシア、フィンランド、スウェーデンから続くなだらかな平坦地、西部はフィヨルド地帯で傾斜地が多いです。そのフィヨルドの入り江、入り江に集落が点在しています。その西部の条件の悪い地域でも過疎化はほとんど進んでいません。日本と何が違うのか？ノルウェーに興味をもった一番の理由です。国の施策や地方自治体の役割などを知ること、林地の相続と移動実態、条件不利な林業地への直接支払い制度などを研究しています。

小規模所有が多く、団地化が課題となっているなど日本とよく似た状況もありますが、ここでは全く異なる制度を紹介します。それは森林への国民の入山権についてです。ノルウェーでは野外生活法という法律があって、国民は誰の森であっても散策、キャンプ、野生のベリー類とキノコ類の採取は自由にできるというものです。ノルウェー人は、残業（ましてやサービス残業）はほとんどしませんので、日の長い夏場だと夕食後よく森の中を歩きます。森と親しむことは国民の権利であり、キャンプやベリー摘みなどのマナーを小さい頃から、いろんな機会に教育されているそうです。

一方、もちろん木材は森林所有者のものですが、その他にハンティングと釣を行う権利は所有者が利用者に売ることができます。また、所有地で小水力発電を行い、電力を販売している森林所有者もいます\*2。ノルウェー森林所有者組合の資料によると、森林所有者の森からの収入は図のような構成になっていて、パルプチップ、薪としても木材を販売していること、ハンティング権の販売やエコツーリズムなどの収入も一定割合を占めます。森林組合は組合員のそうした森林を活かした様々な取組をサポートしています。森林組合の一番の仕事は林産企業との木材価格交渉ですが、組合の全国組織には動物の専門家もいて、ハンティングについて組合員に情報を提供しています。

次回、訪問する時は、ラズベリー、ブルーベリー、クランベリーなどが採れる9月にしようと思っています。

図 ノルウェー森林組合員の林業収入構成



左上：小規模水力発電施設

右上：ノルウェースプルース

左：民宿で出たクランベリーのデザート

\*1 帰国後に凄惨な発砲、爆破事件があって、泊まっていたホテル周辺がテレビで放映され、驚きました。その事件での死者数 76 人は第二次世界大戦中のヒトラー侵攻以来で最悪ということで、それまではとても平和で、自然災害も少ない安全な国です。

\*2 ノルウェーは石油と天然ガスの産出国で、それらを輸出して外貨を稼いでいますが、国内電力の9割以上は豊富な水による水力発電で賄う自然エネルギー国でもあります。

## 第16回九州森林フォーラム IN 北九州 開催のお知らせ

九州森林ネットワークのオフィシャルホームページ：<http://www.geocities.jp/shinrin9net/>

■日程：平成22年10月28日（金）～10月29日（土）

■会場：門司生涯学習センター

■テーマ：震災を超えて第一弾

「どうする木材業界？ 今九州の家づくりはどこへ向かうか？」

3.11の東日本大震災及び原発事故を契機として、九州として何をなすべきかを考えるシリーズ企画『震災を超えて』の第1弾として、東北と九州の木材産業に詳しい遠藤日雄氏に、東北の実態と九州をはじめ全国の木材流通に与える影響について基調講演をお願いします。また、住宅産業の動向に詳しい三浦祐成氏の震災を経て住宅産業が直面している問題の緊急レポートを予定しています。さらに、環境共生を掲げ地域工務店の旗頭である安成工務店の事例報告をもとに、これからの家づくりはどこに向かうべきかを踏まえ、木材業界はどう変わるべきかをみんなで考えます。

多数のご参加をお待ちしています。

■主催：NPO法人 九州森林ネットワーク

■協力：株式会社 安成工務店

■参加費：1,000円（会員無料）

■プログラム：

10/28(金) 13:00	門司港駅集合
13:00～18:20	安成工務店 展示場（北九州）、プレカット・断熱材工場（下関）見学
19:00	交流会（門司）
10/29(土) 10:00～15:30	九州森林フォーラム 基調講演①「九州は1つ、県産材から九州産材へ」 講師：鹿児島大学 農学部 教授 遠藤 日雄 氏 基調講演②「地域材活用のニーズの変化を探る」 講師：「新建ハウジング」編集長 三浦 祐成 氏 事例報告 「LCCM(ライフサイクルカーボンマイナス)住宅で『木の家』工務店が復活」 講師：安成工務店 代表取締役 安成 信次 氏 パネルディスカッション コーディネーター 矢房 孝広氏 木川 研史氏、村田義弘氏、吉弘 辰一氏

■問い合わせ先：NPO法人九州森林ネットワーク事務局（宮崎県諸塚村 企画課内）

TEL:0982-65-1116 FAX:0982-65-0032

株式会社 安成工務店 福岡支店 リノベ事業部（担当 渡邊 美恵）

TEL:092-433-1230 FAX:092-433-1621